

# ふるさとファイル

## 京都守護職会津藩と長岡

### ～幕末150周年②～

展示コーナーだより

第56号

平成25年10月

生涯学習課文化財係

現物の展示期間（図書館休館日は除く）

資料①③⑥

平成25年10月2日(水)～11月17日(日)

資料②④⑤

平成25年11月19日(火)～12月27日(金)

今からちょうど150年前の文久3年（1863）は、前年末に上洛してきた会津藩が、京都守護職として本格的に始動した年にあたります。それと同時に、古市・神足・勝龍寺の3カ村は会津藩の領地となりました。会津藩と市域の村々の知られざる関係に迫ります。

#### 会津藩の京都守護職就任（資料①）

会津藩主松平容保は、文久2年（1862）閏8月に京都守護職を拝命します。それからしばらくの準備期間を置いて、同年12月24日に入京を果たしました。

京都守護職というと、京都の街中のみで活動していたという印象を受けますが、必ずしもそうではありません。例えば、着任早々の会津藩は、京都を混乱させる不逞浪士の入京を防ぐため、京街道上の楠葉台場（枚方市）と、西国街道上の梶原台場（高槻市）の設置を計画します。この巨大要塞の築造にあたっては、市域も含む周辺村々に様々な負担がのしかかりました。

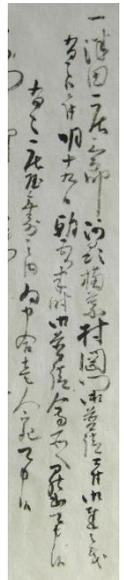
また、京都守護職への就任に伴い、会津藩へは近畿地方で7万5千石もの領地が新たに与えられます。市域では、古市・神足・勝龍寺の3カ村が、新たに会津藩の「役知」（任期中限定の領地）となりました。

#### 禁門の変と会津藩領（資料②③）

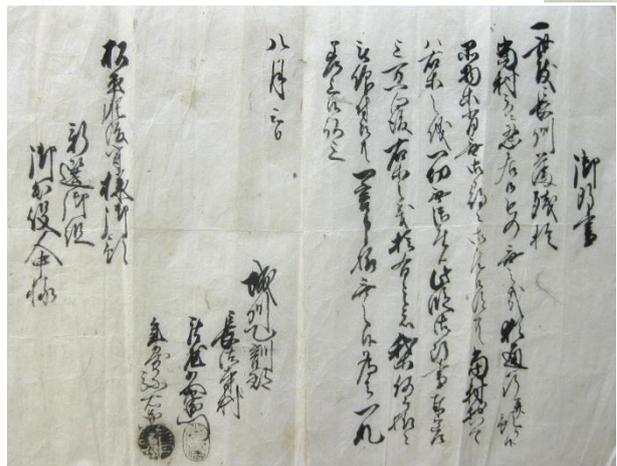
元治元年（1864）には、一橋慶喜が禁裏御守衛総督・摂海防禦指揮に、桑名藩主の松平定敏が京都所司代に就任し、会津藩と次第に連携を深めていきます。この連立権力は、頭文字をとって一會桑権力と呼ばれています。会津藩は、そのなかで軍事面の中核を担いました。

文久3年（1863）の八月十八日の政変で、長州勢を京都から駆逐すると、会津藩はその報復に備えて、領地からの人足動員体制をととのえていきます。その過程で、元治元年6月には、15歳から60歳のうちで健康な男子の数を村々に申告させました。その翌月には、上洛してきた長州勢との間で禁門の変と呼ばれる戦闘を展開しますが、会津藩は直前の申告に基づき領地村々から農民たちを総動員しています。

村々の協力もあって、会津藩が勝利を収めると、今度は長州勢の残党探索が始まります。市域でそれを担当したのは、会津藩配下の新撰組でした。



① 楠葉台場への招集命令（鞆岡家文書）



③ 長法寺村から新撰組への報告書（佐藤家文書）



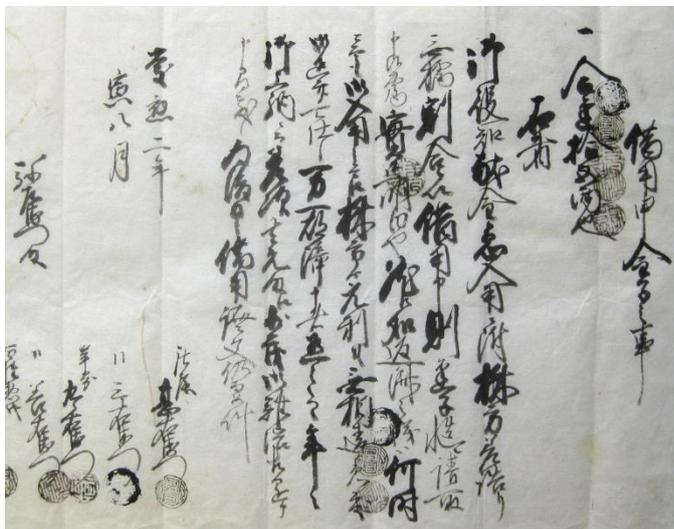
## 会津藩と村々の関係（資料④⑤）

江戸時代の農民たちは、必ずしも支配者の言いなりになっていたわけではありません。表向きは会津藩の動員に素直に従っているようにみえて、その裏側で村々は一致団結して、会津藩に対していくつかの交換条件を突きつけていました。

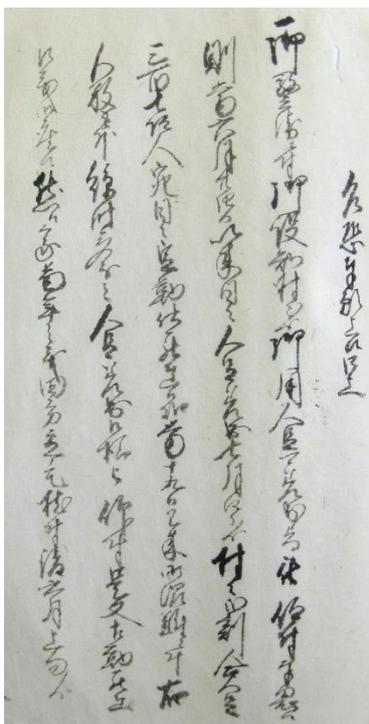
そのうち最大の要求は、助郷役すけごうやくの免除です。助郷役とは、宿場町しゆくばまちの近村に課せられた労働役で、村にとって大きな負担になるとともに、宿場町とのトラブルの原因ともなっていました。幕府の命に基づくため、助郷役の免除申請は通常認められませんでした。会津藩は幕府から絶大な権力を与えられていたため、村々の要求を呑んで自身の領地の助郷免除を強引に推し進めます。

会津藩からの金銭の要求にも、領地の村々は積極的に応じていました。なぜなら、それと引き替えに苗字帯刀みょうじたいとうの許可など、様々な特権を得ることができたからです。

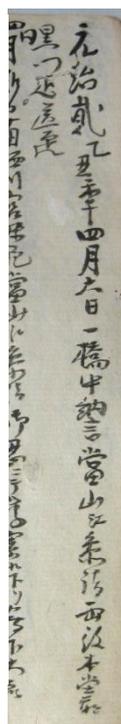
→ ⑤ 会津藩への献金に伴う借金証文  
(中山家文書)



→ ④ 村々から会津藩への人足免除願 (中山家文書)  
会津藩はこの願い出を承諾しませんが、その代わりに助郷役の免除に奔走します。



→ ⑥ 一橋慶喜が光明寺を参詣したときの記録  
(京都西山短期大学蔵光明寺雑記)



## 一橋慶喜の長岡来訪（資料⑥）

一會桑権力いちかいそうは、江戸から離れた京都にあって、幕府勢力を代表する役割を果たしました。朝廷側もそれに呼応して、江戸への命令は全て一會桑権力との協議の上で決定するという原則を慶応元年けいおう（元治2年・1865）4月に定めます。

一會桑権力が絶頂期を迎えたこの頃、一橋慶喜ひとつばしよしのぶは京都周辺の警備状況について視察を繰り返しています。例えば4月6日には、京都を出発して、西の守りの要となる山陰道（現在の国道9号線）の老ノ坂おいのさかを視察したのち、向日町の富永屋で休憩しています。そして、光明寺と長岡天満宮を見物して山崎まで南下し、帰路につきました。

一會桑権力の成熟は、同時に京都守護職の安定も意味しましたが、慶応2年8月に一橋慶喜と会津・桑名藩の足並みが揃わなくなり、一會桑権力は崩壊してしまいます。江戸幕府の崩壊は、それからわずか1年余りのちのことでした。

参考文献（図書館に有）：『大阪府枚方市所在楠葉台場跡』（枚方市教育委員会、2010年）

馬部隆弘「京都守護職会津藩の地方支配」（『史敏』通巻11号、2013年）